

血液一般検査について No. 4

ひかりが丘薬局

H21.7月号

☆今月はBNP(脳性ナトリウム利尿ペプチド)です☆

—BNPとは?—

心臓から分泌されるホルモンで、利尿作用、血管拡張作用、交感神経抑制作用、心肥大抑制作用などをもち、心筋を保護するように働きます。

<検査でわかること>

心臓に負担が増えたり、心筋の肥大がおこると増加するので心臓の状態がわかります。

近年より心不全の診断と病態把握にも使用することが認められています。また、人間ドックのオプション検査として行っている施設もあります。

—BNP 値の評価—

BNP 検査単独での評価は不十分であり、心電図や身体所見胸部レントゲン等も用いることで心機能状態を把握します。

—基準値とその変動—

診察治療中で経過観察中または心疾患なしでは通常は、

100 Pg/ml 以下 (血漿 BNP の基準値は 18.4 Pg/ml 以下)

◆心臓病以外で起きる軽度の上昇◆

- ・ 本態性高血圧
- ・ 慢性心不全
- ・ 慢性腎不全
- ・ ネフローゼ
- ・ 原発性アルドステロン症
- ・ 抗利尿ホルモン分泌異常症など
- ・ 妊娠中毒症
- ・ 甲状腺亢進症
- ・ 発作性頻拍症
- ・ クッシング症候群
- ・ 肝硬変

100 Pg/ml 以上の場合は心臓に負担がかかっている状態ととらえ、注意を必要とします。心不全がある時には、BNP 値 200 以下を治療目標とします。現在、通院していない方は循環器専門外来を受診し、心臓超音波などで心臓疾患の精密を行うことをお勧めします。

